

地場産業製品へのユニバーサルデザイン (UD)の導入
(中間評価)

質問・意見

回答

G委員	鉄瓶のUDは具体的にはどのようなデザイン開発をしたのですか？	<p>民芸風のデザインが今の生活習慣では使いにくい、また鉄器自体が重いという問題があり、注ぎやすさ ふたが落ちないこと、電磁調理器で使用した場合に吹きこぼれないようなデザインになっています。ですがデザインをやりすぎると問題ですので、例えば昨年実施したタンスでは特に伝統性を残すことをコンセプトとしています。</p> <p>(補足) : 具体的な開発方法は下記のとおりです。 既存製品の調査と重点的改善製品の選定 選定製品の 使用調査による問題点の抽出と改善方法の検討 製品の 造形アイデアの作成と、フィンランド アラビア製陶社デ ザイナー、ヘイッキオルボラ氏によるデザイン指導 デザイン試作 製造技術上の形状デザインの問題点抽 出と展示会等による反応調査と結果のフィードバックによる 改善</p>
C委員	実際製作している企業からの評価はどうしたのですか？	鉄瓶の場合は鉄器組合と共同で行い、組合側に希望するデザインを選んでいただきました。タンスは事業開始前に企業の既存製品の問題の洗い出しを行い、改良した物を企業に評価してもらうという流れで進めました。
	製品化したものの評価はどうなのですか？	鉄器については、従来の形と異なりますので抵抗がありました。それによるコストの問題もありましたが、展示会等に出して売れることによりだいぶ認識いただいたようです。また、昨年の展示会で従来品とUD品を出展し、UD品が売上の7割ほどを占めたという実績もありますし、実際使用する方に使い勝手の良さを理解してもらうことで買って頂いたケースがよくありました。
B委員	PRしながら売れば違いをわかってもらえるかもしれませんが、通常販売する際は、買い手の感性による部分が多いと考えられますので、例えばUD品かどうか分かるようなマークで判別できるようなものはないのですか？	UD製品で良い製品であると認定された場合は、Gマークを付けることができます。
G委員	グッドデザイン賞の部門でユニバーサルデザイン賞の部門があり、それでGマークを付けることができます。	(補足) : 1～2年の評価や改善を行った後、企業にGマーク申請を働きかけることを考えます。
A委員	センターでは鋳物材料も研究しているのだから、軽量化や防錆処理についてできれば売上向上につながるのではないのですか？	例えばステンレス化した鋳物の研究もしていますので、そういった材料への転換も検討しています。他にも実際製作している工房でも軽量化の検討はしており、始めの試作品に比べればだいぶ軽いものになってきています。

F委員	作成したUDのハンドブックはどこに配布したのですか？	県内の鉄器メーカー、製造業、関連団体に配布しました。
	作り手の意識は向上しているようですが、使い手側の意識を高めるような活動については考えているのですか？	パンフレットやパネル作成をしていますが、説明をきちんとして使い手側の意識を高めることは今後の課題であり、検討していきたいと思います。
	他県でもUD品の研究はしていますが、他県公設試等との連携は現時点ではあるのですか？	年2回、各県のデザイン担当者の会議があり、その場で研究発表をしたり連携の話についてはしております。
E委員	今回製作したUD品の家具について、金具に関して、お客様からの意見が不評でしたので、UDの紹介をするなど、対策はなにかあるのですか？	金具についてはヨーロッパのデザインを見ても、値段の割には安く見えるという指摘があります。今はデザイン的にそういったものを探してお客様に紹介する機会を増やすことが大切だと考えています。 (補足) :ヨーロッパ製の金具等の調査を行い、適したものがあれば採用を考えます。
C委員	県内に鋳物メーカーはあるのですから、金具について呼びかけなどすればそれに対応できるのではないのですか？	タンスの表情を出すための鋳物の金具はあるのですが、今回開発したのは、片手で子供でも楽に引ける、引き出しがきちんと止まる、引き手の金具が本体内部におさまるようなデザインであり、既存の金具を同じように使うとスチールより重くなる、使い勝手が悪くなるなどの問題があります。 (補足) 鋳物製の軽量取っ手の開発を計画しており、年度内には製品に装着できるように考えております。
	今回、課題もかなり出たのでこれからの研究に結びつくのではないかと思います。	(補足) 本テーマの実施期間が終了しても、基本的な問題なので、日常業務や他の事業で取り組みたいと考えています。